

理事長所信

第 50 代理事長 岡田 眞里

スローガン

for the better ～あと一つ、あと一歩～

はじめに

「わが郷土吹田市は、北になだらかな千里の丘陵を仰ぎ、南は葦の葉繁れる淀の河畔を臨む豊かな自然に恵まれて発展を続け、いまでは国内外に誇る近代文化都市としてさらに飛躍的な発展を遂げつつある。また一方ではこうした豊かな資源を生かして開かれる“世紀の祭典”日本万国博覧会開催都市として、その名も広く全世界にとどろきわたっている。こうした重要な時期にあって志を同じうするわれわれ青年が一致団結し、英知と勇気と情熱を持って、わが郷土吹田市発展のために貢献することを決意した」（創立宣言文より）

「人類の進歩と調和」をテーマに日本万国博覧会が開催された年、明るい豊かな社会の実現を目指し、吹田青年会議所が創立されました。それから 50 年、奉仕・修練・友情を信条として想いを現実（かたち）にすべく運動を行なってきました。

私は、人生は積み木のようなものだと思っています。上へ上へと重ねていく中で少しずつ違う景色が見えるようになる。あるいは横に広げて大きくすることで違った角度からの景色が見える。いい加減に積んでしまったときには、次の積み木は積みにくくなり、いつか先に進めなくなってしまう。また何かの拍子に積み上げたものが崩れてしまうこともあります。積み方を工夫したり、素材を変えたりしながら、より大きくより高くを目指して繰り返し積んでいく。そうして自分という人間を形作っていくのだと。

組織も社会も同じです。多くの先人たちが積み上げてきたものの上に今があり、未来は積み上げてきたものの先にしか作れないのです。

吹田青年会議所は 50 年という長い歳月をかけて、多くの先輩方が関わり明るい豊かな社会を目指して丁寧の一つずつ想いを込めて積み上げてきてくださいました。私たちは先輩方が積み上げたものを受け継ぎ、今この場所に立ちこの景色を見ることができています。そのことに感謝し、これから先、私たちも想いを込めてゆるぎなく、しっかりと積み木を重ね、広げていくことを約束し、明るい豊かな社会のために組織の器をより大きくして参ります。

みなさんは、理想のまちとはどんなまちを思い描きますか。私は、市民一人ひとりがまちを支え、まちの未来を創る権利と義務を持っていることを自覚し、まちの未来に対し責

任をもって行動できるまちを創りたいと思っています。地域の産業や経済・市政・地域社会に関わる教養を身につけ、能動的に地域に関わり、「より良いまちにしたい」と行動する市民をどれだけ増やすことができるのかが課題です。生活の糧である仕事に対しては、真剣に取り組むことができる人は多く存在します。しかし、仕事以外の関わりである地域社会や政治、社会問題などに対しては無関心を装い、傍観者となったり、自分に不都合があるときは不満の声を上げ、自らの主張を正義とするために声高に権利を主張したりする人が少なくありません。なぜこのようなことが起こるのか、原因を見極めて解決に導き、まちづくりに参加する市民を増やすことは、「明るい豊かな社会」の実現を目指す上で大きな課題の一つであり、当会の使命です。まちづくりはひとづくり。一人でも多くの市民がより良いまちづくりのために行動することを目指して、活動を行なって参ります。

より良いまちづくりのために～価値観を変えることで行動が変わる～

私たちの行動はすべて価値観に基づいています。まちづくりに関わる市民を増やすには、まちづくりに関わることにどんな価値があるのかを理解し、感じ取ってもらわなければなりません。価値観は、主に幼少期には親に影響を受け、少年期は友達であったり、手にした本や周りの大人に教わったことであったり、その人の環境から得られる情報と経験を基に形成されていきます。見えなかった価値に気付いたとき、新しい価値を発見したときに価値観の変化が起こり、人の行動を変えていきます。人が置かれている環境を理解し、価値観に変化を及ぼすに十分な知識と経験の機会を提供することが、より良いまちづくりに必要なことなのです。

より良いまちづくりのために～共感を生む力を育てる～

「こうあるべきだ」という社会から「様々な考え方や生き方を認めよう」という、価値観の多様性を認めあう社会に変わろうとしています。固定観念にとらわれ違うものを排除するのではなく、個性を尊重しお互いを認め合う社会は、明るい豊かな社会を実現するための選択肢として、理想とするにふさわしいものだと思います。

しかし現状は、多様な価値観を盾にして自分勝手に貫いたり、他人の意見や考えを価値観の違いとして捨て置いたり、自分の知っている世界や今ある価値観から自由になれない人も増えているように思います。「多様性を認めて欲しい」、「なぜ受け入れてくれないのだ」と相手にばかり理解を求めるのでは、却って生きづらい社会になってしまいます。多様な価値観を認め合う社会を実現し、明るい豊かな社会とするためには、一人ひとりがその社会にはこれまで以上に自由と責任を持っていることを自覚し、そして多様性を認め合うための資質を身につけなければなりません。

異なった習慣や価値観を持つ人たちと共生していくためには、「何故そうなのだろうか」と【想像力】をはたらかせ、好奇心をもつことが大切です。あらゆる物事について「人がこういっていたから」「こう教えられたから」ではなく、自分の常識や価値観では考えられ

ないことに対しても思考を巡らすことのできる力を育てなければなりません。

次に【洞察力】を身につけること。物事の外見や表面にとらわれず、物事の本質を見極める力は一朝一夕に身につけることはできません。相手が何故そう考え、行動するのかを見抜く力を身につけることは、異なった歴史、文化、背景をもつ人々と関わっていかねなければならない社会において最も大切なことです。

三つめは、【個性を持った人間になること】。個をやたらと強調するというものではありません。それぞれが自分の考え方や価値観を社会の発展に活かすにはどうすれば良いのか、自己を啓発し続けることが大切です。

最後に、【人として誠実であること】。つまり何事にも真摯に取り組み、終始一貫してぶれないことです。

お互いの独自性や個別性を尊重しあい、共通の課題に対して同じ価値基準を見出す能力を磨くことが、多様性を認め合う社会で共感を生むために必要不可欠な素養の一つです。

より良いまちづくりのために～知識と思考力を深め、共感の礎を築く～

論語に「学而不思則罔、思而不学則殆（学びて思わざれば則ち罔し（くらし）、思いて学ばざれば則ち殆し（あやうし）。）」という言葉があります。これは、いくら懸命にたくさんの知識を得ても、自分の頭を使って考えなければ本物の知恵は身につくことはありません。逆に、考えるだけで思考を支える知識を身につけなければ、独りよがりになる危険がありますという意味の言葉です。まちづくりについて考えよう、ひとづくりについて考えようといっても、考える材料となる知識がなければ本当の知恵は生まれません。独善的な思考に陥らないよう知識を習得する姿勢を忘れてはいけません。定例会や事業を設営するときも参加するときも、常に考えるための材料となる知識の習得を怠らず、その上で自分はどう考えるのかということをしかりと意識する。そして自分の考えを伝え、相手の考えを聞く。この繰り返しで、多様な考え方の中に共通性があることを見出させ、共感の礎となるのです。

まちづくりはひとづくり～行動がひとを変える～

私たち青年会議所の活動は、メンバーの会費によって支えられています。会員を増やすことは、まちの未来に対してより多くの投資が行なえることとなります。しかし、会員の拡大は活動費を得ることが目的ではありません。わがまちを良くしたいと考え行動することができる人間をつくること。同志を増やすことこそが会員拡大の目的であり、ひとづくりそのものです。そのことは、私たち自身が経験し最も良く理解しているのではないのでしょうか。入会し、まちのために、未来を担う子どものためにと志を持ち、明るい豊かな社会の実現を目指す者たちに出会い、自分自身が変わったはずです。そして、これまで先輩が築き上げてきた地域との信頼、先輩や仲間と育んだ絆は、私たちに英知と勇気と情熱を持つ人間の豊かさを教えてくれたはずです。振り返ってみてください。青年会議所が自分

にどれほどの成長の機会を与えてくれたのかを。

青年会議所は会員に成長の機会を提供する場でもあります。次々に用意される成長の機会を掴めば、自分の可能性は無限大に広がっていきます。自分の成長を信じ、勇気を持って次の一步を踏み出しましょう。そして、相手からその勇気を引き出すことが拡大運動なのです。多くの人と出会い、いかにお互いの理想を語る機会を作ることができるか、ここにこだわり拡大運動を行なっていきましょう。そして、確かな目標を設定し、ニーズを把握・分析し、社会の動きを見極め、新たな挑戦を行なうこと。どのような組織も社会の変化に対応できなければ消滅してしまいます。未来を見据え、ビジョンを持って取り組んでいきましょう。

ひとつづくりはまちづくり～まっすぐに想いを伝える会員交流～

当会も社会と同じように様々な背景、多様な価値観を持ったメンバーが集まっています。事業主ばかりでなく、会社員や公務員も同じ志を持って共に活動を行なっています。学校のクラスのように委員会があり、会員は委員会に所属しそれぞれの役割を担い活動していきます。多様な価値観や背景を持つ者が集まり、共通の目的を追いかける。多様な価値観を認め合う社会において何が必要で何が大切なのか体験的に学び、身につけていけることが、青年会議所が人材育成に適していると言われる所以です。しかし、多様な価値観や背景を持つ者が集まったとしても、自分の想いや考えをまっすぐに語ることはできないのでは、新しい価値を生むことはできません。全員が忌憚なく率直に意見を出し合い、納得のいくまで議論することで無条件の信頼関係が生まれ、仲間となれるのです。社会での地位も学歴も性別も関係ありません。明るく豊かな社会を実現するために、それぞれの持つ個性が必要なのです。私たちの運動は、自分を思う存分表現し、他人を受け入れ、様々な価値観から共感を生んで創られるものだからこそ、市民の価値観を変えるほどのものとなりえるのです。

新たな出会いが未来を創る～あと一步が組織を変える～

人は、新しいものや人との出会いをきっかけに、新しい価値や魅力を見出し、文化を創ってきました。新たな出会いが感情を動かし、その経験が思考を変え、思考が価値観を変え、行動を変えていきます。そして、行動が習慣となり、やがて文化として受け継がれていきます。新たな出会いが未来を創ってきたのです。

多くの企業や団体が新しい価値の創造を目指し、新たな出会いの場を作るためにイベントを開催したり、新しい団体を組織したり、様々な取り組みを行なっています。しかし、私たちは多くの仲間との新しい出会いを、手を伸ばすだけで手に入れることができる環境が構築されています。青年会議所には117の国と地域に約17万人のメンバーが所属し、日本では、695団体（LOM）、約3万6千人のメンバーが活動しています。そして、この多くの仲間と関係を育み、協働できる仕組みが今ここにあるのです。

青年会議所がもつ大きな組織力を活かし、価値観を広げれば、私たちの運動をより大きく豊かなものにすることができます。今いる世界から、あと一步踏み出しましょう。たった一步でも全員が踏み出せば、大きな力となって私たちをより強く大きなものとする事ができるのです。

すべてはより良い未来のために～あと一つ、あと一步～

これまで述べてきたことは、すべてより良い未来を創るために必要なことです。あと一つ、あと一步と自分の世界を広げ続けていくことが、想いを現実（かたち）にする術なのです。常にどうしたらより良くなるのかを心に持ち、取り組むこと。それはやみくもに **best** を追い求めるのではなく、**better** を日々追求し続けることができるかだと思っています。**best** を追い求めるのではないと言うと、消極的に聞こえる人もいるかもしれませんが。しかし、私はこう考えるのです。社会にも未来にも理想はあれど、ゴールはない。どんなときにも **best** はより良いものを追い求めた時に一瞬訪れるだけの奇跡でしかない。日々、あと一つ、あと一步と **better** を追いかけることが **best** を塗り替え、より良い未来に繋がっていくのです。

一つの価値観に縛られない多様性を認め合う社会を実現するためには、全ての人が **better** を模索し続ける気持ちを持つことを忘れてはいけません。**better** を追いかけることに **best** を尽くす。これがまちづくり、ひとづくりをする者のあるべき姿だと考えます。

むすびに

私は、時代とともに自分が生まれ育ったまちの活気がなくなっていくように感じ、寂しさを感じていました。子どもの頃は、千里山の駅前に市場がありお店の人やそこに訪れる地域の人たちが声をかけ合い支え合っていました。落ち込んだ顔をしているときには何かあったのかと声をかけ、うれしいことがあったときには一緒に喜んでくれ、そして悪いことをした時には思いっきり叱られました。その環境が不自由に思うこともありましたが、大人になるにつれ自分の芯となるものを育ててくれたと感ずることができるようになり、感謝の気持ちに変わっています。この経験と環境が私の価値観を形成し、まちづくり、ひとづくりに対する想いの原点となりました。そして今、自分が受けた恩恵や想いを次の世代に引き継ぐことが私の恩返しであり、そして今をより良くしたいと、想い行動し続けることが未来に対する責任だと思っています。

私たち青年会議所の活動はすべて、明るい豊かな社会を築くことに繋がるものです。私たちは青年会議所に所属し、未来に対し責任をもって活動していることに、全員で議論し取り組んでいる事業に、共に行動する仲間、そして先輩方、地域諸団体、行政との絆がある環境に、もっと自信と誇りをもって良いのではないのでしょうか。素晴らしい機会と経験を与えてくれる組織の価値を、多くの市民に伝えていきましょう。

最後に、価値ある組織を今に引き継いでくださった多くの先輩方、ともに支え歩んでく

ださった地域・行政の皆様へ感謝と敬意の想いを伝え、その長きにわたる絆をまだ見ぬ未来を作り続ける力に変えて、英知と勇気と情熱をもって今というときを共に駆け抜けましょう。吹田青年会議所は、次の 50 年に向けてより良い未来の創造に邁進して参ります。

【基本方針】

- ・未来を見据えて戦略的に行なう会員拡大
- ・まっすぐに想いを伝える会員交流
- ・知識と思考力を深め、共感の礎を築く定例会
- ・まちづくり運動への関心を高める広報活動
- ・新しい価値観をもたらし、組織力を向上させる出向活動
- ・市民とともに創り上げるまちづくり事業
- ・礼節を重んじ心身を鍛える青少年育成事業
- ・吹田の魅力を発信する大阪ブロック大会
- ・市民性を涵養する公開討論会
- ・想像力と洞察力を養う国際交流
- ・組織を知るための会員研修
- ・規律を守り、協調を図る理事会運営
- ・組織運営の礎となる財政規則審議会